地域の観光コンテンツとコラボした藤沢野焼祭の再生

令和3年度地域政策研究センター　地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：藤沢野焼祭を生かした持続可能な地域の創造
研究代表者：総合政策学部　教授　吉野英岐
研究メンバー：千葉均（藤沢野焼祭実行委員会長）・佐藤隆行（事務局）・佐藤満（同）
技術キーワード：甲子柿、収穫体験、PRポスター、販売会、軽トラ市

▼研究の概要（背景・目標）

岩手県一関市藤沢町で40年以上続けられてきた藤沢野焼祭は、近年、参加者や参加作品の減少、担い手や資金の不足、祭りで焼かれた作品の活用などの課題に直面していた。本研究ではこれらの課題解決を目的に、研究代表者および学生による複数回の現地調査を実施した。

▼研究の内容（方法・経過）

①研究の方向性の確認
②一関市藤沢町内の観光施設の確認と体験
③野焼祭の課題を解決するための方策の検討
④研究成果の現地報告

▼縄文の炎・藤沢野焼祭

野焼風景

岡本太郎の縄文人

藤沢野焼祭は1976年に始まった「土と炎の祭典」。毎年8月第2土曜・日曜に一関市藤沢町の穴窯基を設置し、陶器1000点を夜を徹して焼き上げるユニークなイベント。

▼現地の観光関連施設

岩手サファリパーク

岡本太郎の作品

観光リンゴ園

古民家活用宿泊施設

研究代表者と学生で、藤沢野焼祭が開催される地域の観光資源について現地調査した結果豊富な資源が存在することが明らかになった。

▼多彩な体験アクティビティ

エレファント・ライド

学生による陶芸体験

ダムカレー試食

ガイド付き町巡り

藤沢町には多彩な観光関連アクティビティが存在する。野焼祭とこれらの活動を組み合わせて、イベントおよび地域の魅力を総合的にアピールすることができる点を確認した。

▼今後の展開にむけた提案

①藤沢町内からの参加者の減少の防止
　岩手県内の小中学校と連携し学校行事にイベント体験を組み入れてもらう。
②観光施設とコラボした町内ツアーの実施
　多彩な施設や体験メニューを野焼祭期間中に組み合わせたツアーを実施する。
③運営資金の調達の見直し
　町外の参加者から参加費をいただき、資金不足を解消する。
④縄文らしさ・藤沢らしさを表すプログラム開発
　野焼祭に宿る縄文的魅力の再発見とPRを強化し、縄文人気を活用したプログラムを作る。

【謝辞】調査実施にあたり、ご協力いただいた関係機関と関係者の方々に感謝申し上げます。